

水産業競争力強化緊急施設整備事業事後評価報告書

			作成部署名 愛知県		
目的		冷凍施設を整備し、鰻加工品の増産を図る。また、鰻製品の他にノリ養殖用の種網を冷凍保管し、ノリの安定生産及び冷凍施設集約化により、運用コストの削減を図る。			
目標		競争力強化（所得向上）		整理番号 2-2	
事業実施主体		一色うなぎ漁協、西三河漁協、衣崎漁協（旧吉田漁協）			
実施地区		西尾市一色地区			
実施期間及び目標年度		実施期間		目標年度	
		令和 2 ～ 3 年度		令和 6 年度	
助成金額		126, 200 千円			
事業計画の内容		鰻加工品及びノリ養殖用種網を保存する冷凍施設を整備する。			
評価	取組の目標（K P I）		受益対象漁業者の漁業所得		
	基準年		（令和元年度時点） 12, 309 千円		
	現状値		（令和 6 年度末） 9, 842 千円	増加率	-20%
	目標値		（令和 6 年度末） 13, 540 千円	増加率	10%
	成果目標		鰻製品の年間取扱量		
	現状値		（令和 4～6 年度平均値） 75 t		
	目標値		（令和 6 年度末） 77 t		
	（1）現状値の説明		令和 6 年度の KPI の増加率は-20%，鰻製品の年間取扱量は 70t であった。シラスウナギ漁獲量の減少による種苗単価の高騰に加えて，飼料等の高騰により経費が増加したことが影響した。現状値は，漁獲量及び種苗単価の変動によるところが大きいいため，令和 6 年度の単年ではなく，令和 4～6 年度の平均値を用いた。その結果，年間取扱量は 75t（達成率 90%）で目標を達成した。		
	（2）地域への経済効果		鰻製品の年間取扱量は過去 5 年平均より増加するとともに，海苔網保管施設との集約化により 3, 702 千円／年の運用コストを削減し、競争力を強化することができた。また，のり養殖業者の所得が 86%増加した。		
	（3）所見		令和 5 年度の KPI は 13%増加した。また、令和 4 年度の		

		鰻製品の年間取扱量は98tであり、大きく目標を上回った。年度により増減はあるが、所得の向上及び地域の特産品である鰻と海苔の競争力を強化することができた。令和7年度はシラスウナギが豊漁であり、種苗単価は前年度の46%に減少し、池入れ量は前年度の118%に増加しているため、KPI 及び取扱量の増加が期待できる。
	(4) 評価機関の意見等	なし
今後の改善方向等に関する分析		